◆文部科学情報◆

（昭和45年1月27日第三種郵便物認可）

週刊 文教ニュース

発行所 ㈱ 文教ニュース社
〒105－0003
東京都港区西新橋1丁目23番10号 南和ビル
電 話 03（3503）6931 FAX 03（3503）6933
（Eメール）news@bunkyo-news.jp
（発行日）毎週月曜日 （購読料）月額¥7,425（本体¥6,750）

令和5年11月13日（月曜日） 第2777号 2023©

目 次

◉「文部科学時評」……（1）
◉文化功労者顕彰式に阿形基生研所長・宮田前文化庁長官ら……（2）
◉第65次南極地域観測隊長ら、超党派の夜間中学等義務教育拡充議連……（4）
◉愛知・広島県知事、教職員定数の在り方で国と地方が協議……（5）
◉室伏スポーツ庁長官が会見、スポーツ政策円卓会議……（6）
◉北海道大、岩手大……（7）
◉東北大、福島大……（8）
◉群馬大、東京外大……（9）
◉東医歯大、学芸大、農工大……（10）
◉東工大、東医歯大……（11）
◉東工大、お茶大、新潟大……（12）
◉富山大、福井大、信州大……（13）
◉愛知教大……（14）
◉豊橋技大、三重大……（15）
◉滋賀大、滋賀医大……（16）
◉京都大……（17）
◉大阪教大……（18）
◉大阪教大、神戸大……（19）
◉岡山大、広島大……（20）
◉鳴門教大、香川大……（21）
◉九州大、九工大……（22）
◉佐賀大……（23）
◉熊本大、大分大……（24）
◉鹿児島大、琉球大……（25）
◉釧路高専、福島高専、群馬高専……（26）
◉岐阜高専、鈴鹿高専、松江高専、宇部高専……（27）
◉久留米高専、有明高専……（28）
◉北九州高専、熊本高専、沖縄高専、中央……（29）
◉歴博、日文研、国立大学法人法改正案で学者ら会見……（30）
◉大学共同利用機関シンポジウム、国立劇場、教科書研究センター……（31）
◉放送大学創立40周年記念祝賀会……（32）
◉皇居三の丸尚蔵館開館記念展「皇室のみやび」……（33）
◉科博クラファン、日展開幕、九博「古代メキシコ展」開幕……（34）
◉大学改革支援・学位授与機構……（35）
◉「さくらサイエンスプログラム」友情と感激（372）（福岡アジア都市研）……（36）
◉特別連載「大学人国記」（豊橋技術科学大学②）……（38）
◉日本国際教育支援協会、NPO学生文化創造……（41）
◉故鈴木勲日本弘道会長偲ぶ、中山千葉大学長が逝去、「叙位叙勲」……（42）
◉「とらのもん往来」……（43）
◉宮田前文化庁長官が日本芸術院会員就任記念の個展……（45）
◉デスク日記……（45）

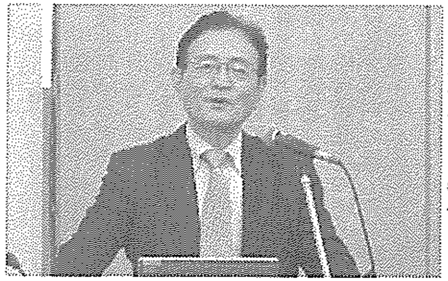
=京都大学=

「HFSPから世界へ」を開催

京都大学学術研究展開センター(KURA)は10月5日、「ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム(HFSP)から世界へ」を芝蘭会館山内ホールで開催し、約90名が参加した。

HFSPは、ライフサイエンス分野における革新的な国際共同研究を推進するため1989年に創設された国際プロジェクトである。同イベントはHFSP機構と国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)が共催し、研究者向けの研究グラントやポスドク向けのフェローシップについて、同大や理化学研究所の過去の採択者や審査委員が経験談も交えながらプロジェクトの内容を紹介した。

湊長博総長は冒頭の挨拶で、「HFSPは非常に名誉のある国際グラントであり、昨今は応用や産学連携に特化した研究資金が多い中、基礎研究に特化しているのはとても貴重。是非、果敢に応募して頂きたい」と述べた。


湊総長による挨拶

パベル・カバットHFSP事務局長は、研究グラントの採択者から多くのノーベル賞受賞者が輩出された点に触れつつ、研究グラントとフェローシップの公募事業について説明した。

=京都大学=

次世代グローバルWSを開催

京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU)は9月29、30日、第16回次世代グローバルワークショップを開催した。

今年は「Migration and Quality of Life : Harnessing the Potential for Social Prosperity」をテーマに掲げ、コロナ渦による3年間のオンライン開催を経て対面形式の開催となった。

世界中の大学院生・若手研究者から約80通の参加応募があり、その中から選出された、インド、フィリピン、シンガポール、ドイツ、アメリカ、日本などの8カ国の若手研究者26名が8つのセッションで報告を行った。発表のテーマは多岐にわたり、移民と戦争、労働、結婚、法制度、宗教、エスニシティ、アイデンティティなど、多様な領域で議論が展開された。また、14名の大学教員がアドバイザーとしてワークショップに参加し、若手研究者の論文と発表にコメントを行った。

吉田神社ウォーキングツアー

アジア研究教育ユニットは引き続き、次世代の研究者が英語での学術交流が行いやすい環境作りに尽力し、ワークショップをきっかけに多くの若手研究者が世界に羽ばたいていくことを期待するとしている。

京都大、東京大、情報研

大学図書館職員短期研修を実施

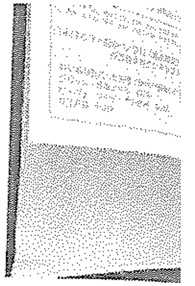
2023年度大学図書館職員短期研修が10月17日から20日、東京大学総合図書館で開催された。

信州大学附属図書館岩井副課長の講義

東京大学附属図書館、京都大学附属図書館及び国立情報学研究所が共催したもので、全国の国公私立大学等から若手・中堅の図書館職員計39名が参加した。コロナ禍による数年間のオンライン開催を経て、4年ぶりに対面での開催となった。

学術コミュニケーション、電子コンテンツ、資料保存など、大学図書館を巡る最新動向について11の講義が行われた。また、受講者は事前課題として「オープンアクセス・オープンサイエンスを推進する図書館職員の役割」「大学図書館の職員として成長する方法を考える」「危機管理の一環として大学図書館の防災計画を考える」「これからの学術情報リテラシー教育を考える」の4テーマから選択した企画書を作成してきており、それらをテーマにしたグループ討議を行った。各大学の多様な現状や経験を基に実践的な議論が活発に行われ、最終日には各自が成果を発表した。

受講者からは「グループ討議での意見交換を踏まえて背景の違う他大学職員の方の考え方が分かり、刺激を受けた」などの感想が寄せられた。


講演

を活用した産業界との共同研究、学術指導、啓発活動を推進していくとしている。

献花を

用者代表である相見良成教授より慰霊の辞が述べられ、続いて参列者全員で献花を行った。